

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年	国語	214人	社会	214人	数学	214人
	理科	214人	英語	214人		

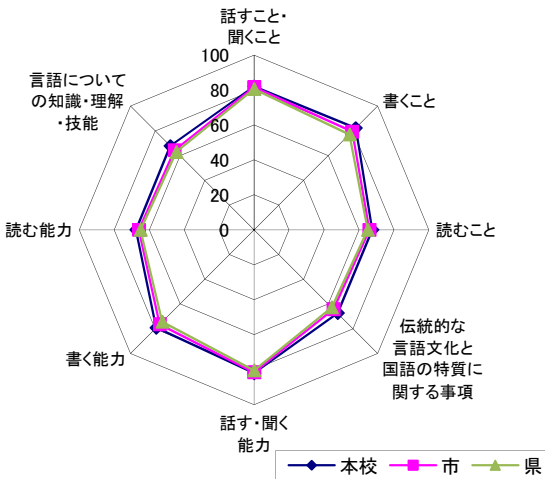
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.0	81.6	80.5
	書くこと	82.2	79.4	77.2
	読むこと	67.6	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	82.0	81.6	80.5
	書く能力	79.2	76.4	74.3
	読む能力	67.6	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	67.8	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

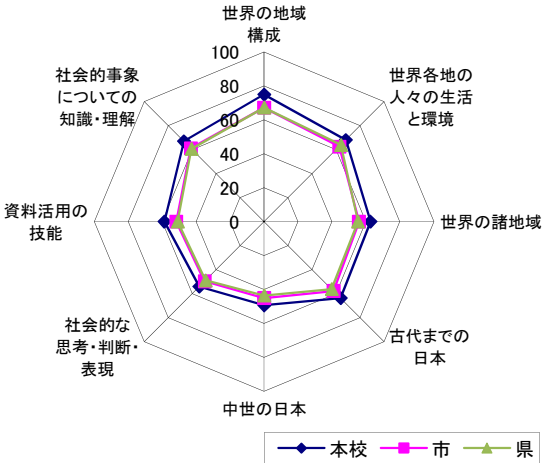
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は県の正答率を1.5ポイント上回っている。1学年での既習内容からの出題であり、他領域と比べると上回るポイントは高い方ではない。 ●全4問で県平均を上回っているが、4問のうち「質問を聞き取り、それに対する適切な発言を考えることができる」という問題の正答率が低く、課題が残るといえる。	話し合いやスピーチ・ディスカッションの学習を通して、聞き手の立場や状況を意識した話し方の工夫や説明の仕方の工夫について、継続的に指導する。
書くこと	○本校の平均正答率は82.2ポイントと、高い正答率を示し、さらに県の正答率を5ポイント上回っている。 ●全5問で県平均を上回っているが、5問のうち「指定された文字数で書くことができる」「3段落構成で文章を書くことができる」などの、指定された条件に基づいて書くという問題の正答率が低く、課題が残る。	指定した語句を用いたり、書き出しを指定した100字程度の短作文を書く機会を増やしたい。 また、様々なテーマにおいて自分の考えを深めることにも力を注いでいきたい。
読むこと	○読むことの領域では、県の平均を2.6ポイントではあるが上回っている。特に「登場人物の心情や行動、情景描写に注意して、登場人物の様子をとらえることができる」という設問では、県の平均を9.5ポイントも上回る高い理解度を確認できた。 ●全9問のうち、文学的作品の内容の理解を確認する4問ではおおむね7割の正答率であったが、説明文の内容の理解を問う問題では3問中2問が6割に満たなかった。 さらに、新聞記事と話し合いの内容を関連付けた問題においては、記事の内容を正確に捉える問題の正答率が49.3ポイントとかなり低くなってしまった。	文学的作品の読解力は、読書指導の充実が成果となつてあらわれたと考えられるので、今後も継続していきたい。 説明文の読解については、接続語に目を向けさせ段落間の関係や、文章の構成をとらえる機会を増やしていきたい。さらに、発展学習として様々な傾向の文章に触れる機会を設けていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は67.5ポイントと、県の平均を4.7ポイント上回った。 ○「漢字の読み」の出題では県と比較すると0.9ポイント下回ってしまったものの、「漢字の書き」では10.1ポイント、また「文法や部首、歴史的仮名遣い」に関する問題では5ポイント上回り、十分な定着が図られていることがうかがえる。	漢字の書き取りテストで定着を図ってきたが、今後も継続して指導していきたい。また、形の似た漢字や、同じ部首を持つ漢字、複数の読みを持つ漢字については、比較させながら指導することで、細かな部分も正確に覚えられように指導していきたい。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	74.9	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	68.1	62.6	63.9
	世界の諸地域	62.7	55.9	55.3
	古代までの日本	63.7	57.8	56.2
	中世の日本	49.3	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	54.1	49.7	48.9
	資料活用 の技能	58.8	51.8	51.0
	社会的 事象についての知識・理解	66.9	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

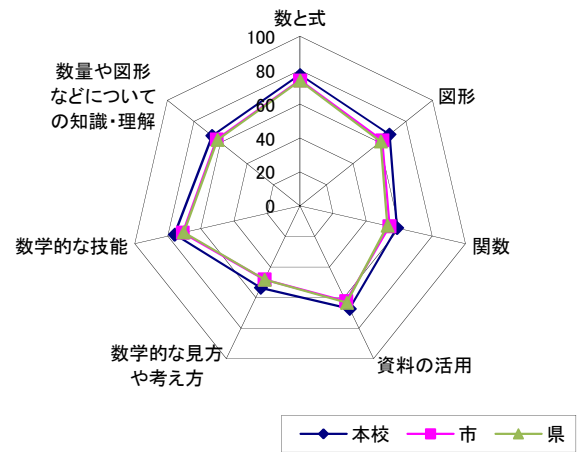
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○県平均と比べて7.8ポイント上回っている。緯度と経度の理解をもとに地図を読み取ることや主な国々の名称と位置を理解できている。 ●世界の地域区分についての理解が不十分な生徒が見られる。	今後はより社会的な事象について、資料から原因や事象の特徴を考えさせる課題を取り入れた授業を展開していきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○県平均と比べて4.2ポイント上回っている。世界各地の人々の住居について理解できている。 ●世界各地の人々の生活と環境についての理解をもとに、雨温図について判断し、その判断の根拠を説明する問題は、県平均と同じ正答率であった。	資料やグラフを授業で扱う際にはその特徴や相違点などを吟味することで、論理的思考力を育てていきたい。
世界の諸地域	○県平均と比べて7.4ポイント上回っている。季節風がアジア州の気候にもたらす影響について理解できている。 ●アジア州の産業の発展について、資料を読み取って説明する問題では、正答率が県平均を2.2ポイント上回るに留まった。	自分の考えを文章で表現する授業は意識的に取り入れているので、今後はその自分の考えを他人と比較しながら検討する時間も設け、見識を広げる授業を目指したい。
古代までの日本	○県平均と比べて7.5ポイント上回っている。縄文時代や弥生時代の特色について理解できている。また、国風文化や奈良時代の特色について、資料を読み取り、考えることができている。 ●年代の表し方については、県平均を2.0ポイント上回るに留まっており、苦手としている生徒が多い。	本校生徒の歴史的な事象に対する興味関心の高さから知識が定着していることがわかる。今後も写真など資料の活用や多面的、多角的な思考を問う学習課題の設定など、生徒の興味関心を高める工夫を行ってきたい。
中世の日本	○県平均と比べて5.8ポイント上回っている。鎌倉時代の衰退についての理解をもとに、資料を読み取ることができている。 ●鎌倉時代に成立した仏教の宗派については県平均よりも3.7ポイント下回っている。	用語の暗記にとらわれず、自分で調べながらそれぞれの特徴を把握していく授業を展開していきたい。宗教や文化についてはその時代背景に大きく関わりながら誕生しているものなので、それぞれの時代を掴みながら知識の定着を図っていく。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	77.3	74.1	73.8
	図形	67.5	62.0	60.9
	関数	58.7	54.1	52.9
	資料の活用	67.4	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	53.6	48.2	48.3
	数学的な技能	75.9	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	66.3	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

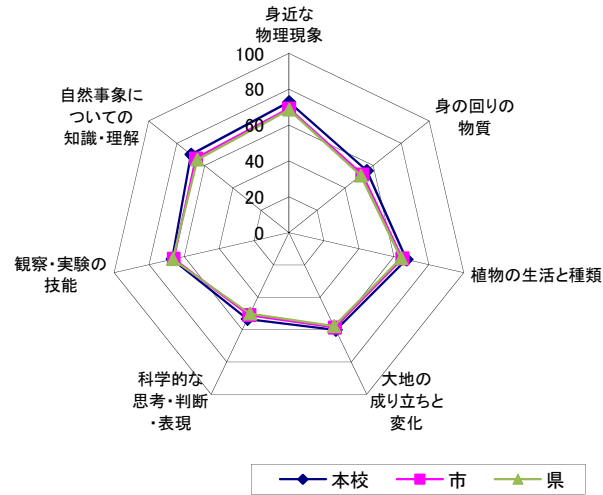
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○県平均に比べて3.5ポイント上回っている。基本的な計算をする力が身につけていることがわかる。文字式や方程式などの計算に関しても解くことができる。 ●考え方の観点での得点率が低めなので、活用問題に苦手意識を持っている生徒がいると思われる。	文字式や方程式に多く取り組ませるようにしていきたい。その際に符号の付け間違いなどに注意して取り組ませるようにしたい。また、活用問題では解法の手順をしっかりとおさえていきたい。
図形	○県平均に比べて6.6ポイント上回っている。作図と平面図形の単元でとくに高い得点率となっている。 ●空間図形の単元では回転体の体積を求める問題などに苦手意識を持っている生徒が多い。	それぞれの図形の性質や、作図方法をしっかりと押さえ、今後の証明問題に苦手意識を持たせないよう心掛けたい。また、空間図形では回転体の体積を求めることを苦手とする生徒が多いので、多くの問いに挑戦できるようにしたい。
関数	○県平均に比べて5.8ポイント上回っている。比例や反比例の性質やグラフの形をきちんと理解していることがわかる。 ●活用の問題に対して苦手意識を持っている生徒が多い。	関数に関しては今後も1次関数や2次関数を取り扱っていくので、式やグラフの形、性質をおさえて指導していきたい。また、既習事項の確認をこまめに入れていきたい。
資料の活用	○県平均に比べて4ポイント上回っている。資料から正しく情報を読み取ることができる。 ●平均値や中央値など用語が多く、それぞれの用語の使い方が理解できていない生徒がいるように思われる。	資料の活用の単元を授業の中で扱うことはあまりないが、各単元の活用問題などで、資料から情報を正しく読み取る問題が出題されている。語句の復習もしながら、資料から読み取る力を身につけさせていきたい。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	72.8	69.2	68.6
	身の回りの物質	55.4	52.2	51.1
	植物の生活と種類	67.2	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	60.2	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	53.4	51.1	50.1
	観察・実験の技能	66.8	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	69.9	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

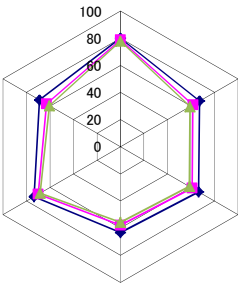
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県平均に比べて4.2ポイント上回っている。光の反射の法則についてよく理解できている。 ●水中におもりを沈めたときの浮力を求める問題について理解できていない生徒が多い。	光・音・力の物理現象は目に見えにくく、生徒には理解が難しい。苦手意識をなくし、理解させるために、実験や観察の時間を十分にとり、探究や規則性を導き出す過程を大切にしたい指導をしていきたい。また、3年で学習する「エネルギーの変換」につながるように、復習させたい。
身の回りの物質	○県平均に比べて4.3ポイント上回っている。気体の特性に応じた捕集方法をよく理解できている。 ●ガスバーナーの正しい使い方を理解できていない生徒が見られる。	身近な物質への興味をもたせ、3年で学習する「イオン」につながるように、復習させたい。また、実験・観察の技能に関する設問の正答率が低かったことから、観察の操作上の留意点とその理由を考えさせるとともに、技能の向上を図っていきたい。さらに、観察結果の考察を討論させ科学的な思考力を身につけさせたい。
植物の生活と種類	○県平均に比べて3.1ポイント上回っている。植物の分類の仕方をよく理解できている。 ●対照実験について理解できていない生徒が多い。	この領域は、3年で学習する「生命の連続性」につながっているため、系統だてて指導していきたい。また、対照実験に関する設問の正答率が低かったことから、対照実験の意味や行う理由を考えさせ、実験技能の向上を図っていききたい。
大地の成り立ちと変化	○県平均に比べて2.4ポイント上回っている。 ●火成岩のつくりについて理解できていない生徒いる。また、堆積岩の特徴や示相化石についての問題の正答率が低い。	大地の変動や地球内部の構造などを大きなスケールで捉えさせるために、効果的に映像資料を活用し、学習内容を定着させていきたい。また、地震や火山活動が起こるメカニズムを知り、防災への意識も高めていきたい。さらに、化石から、地球の歴史や進化の過程について興味をもたせていきたい。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	79.9	78.7	77.8
	読むこと	67.3	61.7	59.2
	書くこと	66.5	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	63.2	57.9	55.8
	外国語理解の能力	73.6	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	68.9	63.0	60.4



—●— 本校 —■— 市 —▲— 県

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は79.9%と、県のポイントを2.1ポイント上回っている。・絵が用いられている問題や英文の要点を聞き取る問題の正答率が高いが、対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題になると、やや正答率が落ちる。	・今後も、クラスルームイングリッシュ(教室英語)を多く用い、普段の授業の中に英語を聞く機会を増やしていきたい。ピクチャーカード(絵カード)を使用し、口頭導入や問答のみならず、友人のスピーチを聞く活動や、フリートーク(自由な英会話)の機会を増やしていきたい。また、質問に対して資料をもとに英文を作って答える練習も取り入れていきたい。
読むこと	○平均正答率は67.3%と、県の平均を8.1ポイント上回っている。・英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶ問題は、80～90%の正答率だが、英語で質問や要望に応じる問題は60～70%と正答率が落ちる。また、長文の内容に関する質問に英語で答える問題に関しては52%と正答率がほかの分野に比べて低い結果となった。	・対話文や説明文など様々な種類の文に触れる機会を持たせたい。 ・教科書のReadの単元などのまとまった英文を読む際に、分析的に指導するだけでなく、内容を大まかに把握したり、内容を推測するような発問をしていきたい。さらに、要約文を作るような活動も取り入れていきたい。また、英問英答形式の問題を必ず織り込んでいきたい。
書くこと	○平均正答率は66.5%と、県の平均を7.8ポイント上回っている。・語形・語法に関する問題と、テーマにそってまとまりのある英文を書く問題は、60～70%の正答率だったが、英語でたずねる文を書く問題は正答率が30～40%と低い結果となった。	・口頭導入中での応答や教師側が設定した質問を用いて、それに答える形の活動には慣れているが、自分が英語で質問を考えるという経験は実は少ない状況である。対話形式の活動でも、最初から質問の文を与えるのではなく、自分で質問の文を書くという活動を行い、それを用いて対話練習を行わせるようにしたい。

宇都宮市立豊郷中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

ほぼすべての項目での肯定割合が県や市より上回り、地域や社会にに対する興味・関心も高く、将来にも明るく希望をもって生活している。

＜学習に関すること＞

○家庭での学習に関しては、「テストで間違えた問題の復習」「自分の考えた勉強」「勉強していて楽しい」「ふしぎだな・なぜだろうと感じる」「授業を集中して受けている」が県・市の平均を高く上回っている。

●「家庭で予習をしている」という質問に対しては、県・市の平均を下回っているが、復習をしている生徒の割合が高く、学習内容も定着している。

＜学校生活等＞＜地域との関わり等＞＜社会に対する興味・関心＞

○「社会のために役立つような人間になりたい」「地域や社会で起こっている問題たできごとに関心がある」「地域社会のボランティア活動に参加したことがある」という質問に関しては「はい」という回答が県・市の平均を高く上回っている。

○「近所の人に会ったときにはあいさつをしている」という質問に対しては県・市の平均を上回っている。

●「新聞を読んでいる」という質問に対しては、「ほぼ毎日」という答えは県・市の平均を下回り、「ほとんど、全く読まない」が県・市の平均を上回っている。

＜基本的生活習慣＞＜家庭でのコミュニケーション等＞

○「早寝、早起きに心がけている」の質問に対して、「はい、どちらかといえばはい」が県・市の平均を上回っている。

○テレビゲーム・インターネットをする時間は県・市平均よりも少ない。

○家の人と学校や将来、学習について話すことは「はい」が県・市の平均より高い。

●「毎朝朝食を食べている」「学校の準備」「身の回りの片づけ」を自分する生徒の平均は県・市の平均より低く、生活習慣が課題といえる。

＜コミュニケーション能力＞

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」「友達と話し合うとき友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒は県・市の平均より少し低い。

＜自尊意識＞＜規範意識＞＜将来に関する知識＞

○「クラスの人の役に立っていると思う」「自分には良いところがあると思う」「自分は家族の大切な一員だと思う」と答えた生徒は県・市平均を大きく上回っている。

○「時間や約束を守ることは大切だ」と回答している生徒は県・市平均よりも上回っている。

○「将来の夢や目標がある」「家の人と将来について話す」と答えた生徒は県・市の平均を高く上回っている。

●「学校のきまりやマナーを守っている」と回答している生徒は県・市の平均を下回っている。